びまん性肺疾患における気管支肺胞洗浄液に関する患者さんの情報の研究利用についてのお知らせ

この度国立病院機構東京医療センター呼吸器科では、「びまん性肺疾患における気管支肺胞洗浄液の細胞分画比率の臨床的有用性」に関する検討を行うことになりました。

血液中の血球分画比率(好中球/リンパ球比(NLR:neutrophil to lymphocyte ratio)など)は様々な疾患の予後予測因子として用いられています。呼吸器内科領域では気管支鏡検査において気管支肺胞洗浄(BAL)を行い得られた気管支肺胞洗浄液(BALF)中の細胞数や細胞分画を検索し、疾患の診断の補助や治療導入前の選択の 1 つとして現在まで使用しています。一方で、びまん性肺疾患における有用な予後予測マーカーや診断ツールは乏しく、今回の検討により難治性の間質性肺疾患の予後予測や治療効果予測を可能にする、簡便なマーカーを発見しうると考えられます。

この研究のため、2005 年 1 月 1 日から 2020 年 3 月 31 日の期間で、気管支鏡検査で BAL を実施した患者さんの診療録の調査を行います。調査項目は個人情報を含まない医学的な情報(年齢、性別、診断病名、既往歴、血液検査および BALF のデータ、生理機能検査、画像所見、治療の有無、転帰)のみです。患者さんのお名前、住所などのプライバシーに関する情報が外部に漏れることは一切ありませんのでご安心下さい。

調査したデータは、本研究の責任者のもとで厳重に管理されます。また、今回の研究で得られた結果に関しては、医学的な専門学会や専門雑誌等で報告されることがあります。

また、ご自身のデータを研究に利用することを承諾されない方は下記にご連絡下さい。その場合も、診療上何ら不利な扱いを受けることはありません。この件に関しましてご質問等がございましたらご遠慮なくお尋ね下さい。

2020 年 9 月

東京医療センター 呼吸器科

研究責任者　　持丸　貴生

連絡先　　(03) 3411-0111